



砂防ボランティア通信

NPO法人 大阪府砂防ボランティア協会

☆ 理事長就任にあたって

今年の梅雨も大阪では大過なくおおむね平穏に過ぎた模様です。

NPO 法人大阪府砂防ボランティア協会も平成15年3月10日に発足以来、早いもので4年目に入りました。去る5月17日の年次総会で会員の皆様方のご推挙をいただき、理事長に就任いたしました。これまで法人発足時から私も副理事長として活動をしてきましたが、前理事長が先頭に立って取りまとめられ、法人の基礎を構築できたと思います。前理事長はじめ、この度の役員改選で退任された役員の皆様大変ご苦勞様でした。これからは新体制の役員の方々と一丸となって、法人の効率的・効果的な運用に努め、益々の発展に尽くしてまいりたいと思います。

理事長就任に当たり、私の所信の一端を申し述べておきます。

NPO 法人大阪府砂防ボランティア協会の会員は、現在は63名となっております。しかし、会員の高齢化が進み、今後の協会運営は大丈夫かと懸念されるのが現在の課題であります。

当協会は、大阪府土木部の関係では初めてのNPO法人として発足し、活動の実績も着実に上げており、高い評価をいただいております。これらの活動実績を上げてこられた「源」となっているのは、大阪府ダム砂防課からの受託事業「土砂災害危険斜面等の緊急診断」調査であります。平成14年度の緊急雇用対策事業で委託を受けて以来、これまで毎年受託しておりますお蔭で、協会の運営が順調に行っております。

この事業を確実にやり遂げ、良い成果品を提出するためには、ボランティア会員の研鑽は勿論ですが、会員のやる気と体力が不可欠であり、この面からも高齢化の進行が大きな不安材料であります。従って、協会存続のために、特に若手会員の確保等に努め、しっかりとした組織づくりを図っていく必要があります。

また、大阪府からの受託事業は当協会の運営に大きな位置を占めています。今後とも、この受託事業を当協会で開催し、かつ地元対応にも最大限の効果を発揮するという更なる評価を貰えるように、協会内で効率的・効果的な方策や体制なりを確保して行かねばなりません。

その外、緊急時の対応等で多くの課題もありますので、ダム砂防課の意向を踏まえしっかり協議した上で、より良い方策を固めて行きたいと思っております。

終わりになりますが、当協会もこれまでは順調に進んで来ましたが、我々の活動はボランティアである限り、基本は自発的な社会事業への奉仕活動であります。会員の高齢化に伴う健康状態の変化、同時にご家族の方々の変化、又会員それぞれの勤務先でも厳しい状況が今後とも出て来ます。従って活動は無理をせずに、出来る事を確実にやって行くというスタンスにせざるを得ないと考えます。困った時はお互いに「助け合い」の精神で取り組まねばなりません。

今後、多くの課題について役員各位はじめ、会員の皆様の意向を求めて、無理のない、活動しやすい環境づくりを目指して参りますので、皆様方の温かいご支援とご協力をお願い申し上げます。私の挨拶とさせていただきます。



理事長 あん どう まさき のり
安 藤 雅 成

★ 平成 18 年度の行事（予定を含む）

① 平成 18 年度総会

5 月 17 日（水）TNJ ビルにおいて、平成 18 年度総会が開催され、新体制等が承認されました。

理事長 安藤 雅成
副理事長 田河 勝一、岡本 冠一
理事 大江 徹（総務委員長、予算・規約等担当）
上畑 憲光（NPO 法人・広報担当）
中田 智（財務担当）
丸山 明（企画委員長、点検・講習会・見学会等）
藤本 光大（事業委員長、緊急診断担当）
監事 高木 武康、岩城 正之

② 砂防ボランティア全国連絡協議会

5 月 16 日（火）に東京都（砂防会館）で開催され、安藤副理事長が出席しました。

③ 砂防ボランティア全国のつどい及び土砂災害防止推進の集い

6 月 1 日、2 日に秋田県で開催され、岩城理事が出席しました。

④ 土砂災害防止月間講演会

6 月 6 日（火）“みんなで防ごう土砂災害”テーマに、本年度は、講演会に先立ち午前中は「亀の瀬地すべり」の現地見学会を実施、午後はプリムローズ大阪(府庁新別館南館)において講演会が行われ、14 名の会員が参加しました。

大阪府都市整備部 福田技監の開会挨拶、「土砂災害防止」に関する絵画、ポスターの優秀作品表彰、国土交通省河川局砂防部の西山 幸治氏と防災システム研究所の山村 武彦氏の講演が行われ、元永 秀 大和川河川事務所長の閉会挨拶で盛会のうちに終了いたしました。

⑤ 大阪府・市町村合同土砂災害危険箇所パトロール（7 土木事務所管内）

実施期間 6 月 7 日（水）～19 日（月）

参加人員 砂防ボランティア 13 人

点検内容 急傾斜地 30 箇所、土石流危険溪流 15 箇所、地すべり 2 箇所

⑥ 土砂災害に対する全国統一防災訓練

本年度より、全国一斉に訓練を行うこととなり（本年度は 6 月 8 日（木）に実施）、大阪府においても 24 市町村の参加を得て実施しました。

情報伝達を中心とした訓練が主でしたが、茨木市・柏原市および島本町においては地域住民が参加し避難を伴う実働訓練を行いました。うち

茨木市では小学生 50 名を含む住民 100 名、島本町では 40 名が参加したため、砂防ボランティアとしても両市の訓練現場に行って「土砂災害に関するお話」を行うなどの啓発活動を行いました。



⑦ 見学会・講習会



毎年、大阪府下および近隣府県の砂防施設 について現場見学会を実施しており、昨年は、和歌山県の「世界遺産高野山」地区の施設見学を行いました。本年度も日帰り行程の範囲で計画します。(11月予定) また斜面判定士資格取得のための現地研修会および一般講習会を開催します(1月～3月予定)。一般講習会については近畿2府4県の共催となり、本年度は大阪府が担当します。

⑧ 砂防施設点検

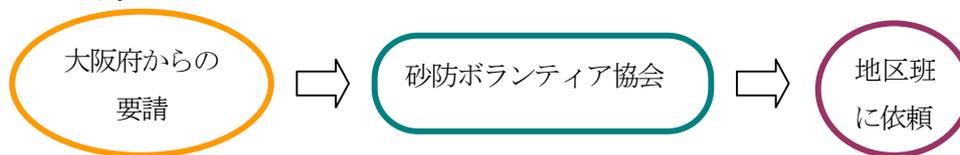
各土木事務所が「土木構造物の維持管理マニュアル」に基づいて毎年実施する砂防施設点検に参加します(昨年は11月)。

⑨ その他

平成17年6月13日に大阪府と締結した「土砂災害防止のための活動に関する協定書」に基づき、土砂災害発生時の支援活動や地元要望箇所の緊急点検など技術支援を行います。

★ 協定書に基づく土砂災害に関する支援について

ボランティア会員による『災害支援および緊急点検チーム(班)』を編成しましたので、ご協力をお願いします。



地区班	① 北部	② 中部	③ 南部
発生場所	淀川以北	淀川と大和川の間	大和川以南
班員	井上益男(摂津市) 上畑(箕面市) 大江(三田市) 土井(高槻市) 中田(池田市) 藤井(箕面市) 藤本(豊能町) 丸山(吹田市)	井上隆司(交野市) 宇野(八幡市) 大山(大阪市) 下清水(生駒市) 善福(大阪市) 田河(生駒市) 半田(東大阪市) 藤井勇(柏原市)	阿部(岸和田市) 岩城(橋本市) 小川(泉大津市) 上島(泉佐野市) 田才(河内長野市) 野口(泉佐野市) 福田(河内長野市) 八木(河内長野市)

(敬称略、順不同)

※ 班員は固定されたわけではなく、他に参加できる方は申し出てください。

※ 班員の中から随時参加していただくことになります。

☆ 土砂災害危険斜面等の緊急診断について

土砂災害危険斜面等の緊急診断も、平成 14 年度から調査活動を始め 5 年目に入りました。この調査は既存カルテを再点検するものであり、今年度も継続して大阪府と契約を締結し、調査活動を実施しています。

1 H18 年度 調査概要

；調査箇所数 大阪府下 250 ヶ所
；調査機関 H18 年 4 月 ～ H19 年 3 月 30 日
；調査会員 32 名

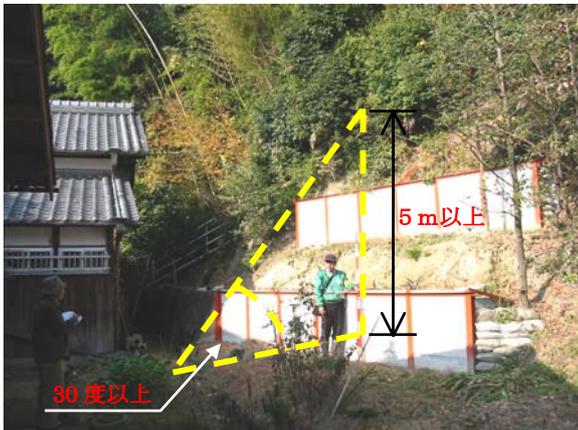
2 調査実績

大阪府下 (単位：箇所)

危険箇所	府下全体	H14 年度	H15 年度	H16 年度	H17 年度	H18 年度	調査率
I	896	360	359	128	—	—	94. 5%
II	1115	—	—	162	201	250 (予定)	50. 0%
III	346	—	—	—	—	—	0%

(I ; 人家 5 戸以上 II ; 人家 1~4 戸 III ; 人家なし)

3 急傾斜地崩壊危険箇所



II-536 下田原



II-542 逢阪

急傾斜地崩壊危険箇所とは、傾斜度 30 度以上、高さ 5m 以上の急傾斜地で、人家（人家がない場合でも官公署、学校、病院等の公共的な施設のある場所を含む）に被害を及ぼすおそれがある場所。

4 調査にあたっての会員の声

- イ 調査に反対する地権者もおられ、特に趣旨を十分説明しなければならない場合がある。
- ロ 斜面地所有者と居住者が異なる場合が多く、所有者に直接説明できないことがある。
- ハ 現地調査時に対策工を期待される居住者があり、対策事業の説明を求められることが多い。etc

以上のように、円滑な斜面地調査を実施するため、当協会員が住民への啓発活動を行っており、その期待される役割は非常に大きいものと考えます。

特定非営利活動法人 大阪府砂防ボランティア協会

〒541-0047 大阪市中央区淡路町 1-6-2 TNJ 大阪ビル 6F

TEL/FAX 06-6208-1919

E-mail osakasabovo@tea.ocn.ne.jp

<http://www18.ocn.ne.jp/~o-sabo/>